

2016年7月25日

# 2015年度環境保全活動報告書

日本黒鉛工業株式会社

瀬田工場

## ごあいさつ

熊本地震で被災された皆様とご家族、ご関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈りいたします。

九州では水害が発生するほどの降雨が観測される一方、関東では水不足が心配されています。新聞、テレビ等で報道されている地球規模での異常気象を見るに、未来の子供たちにどのような地球を伝えていくことができるのか、私たちがやらなければならないことは、はっきりしているのではないのでしょうか。今まで以上に環境に配慮した活動、省エネ、省資源が求められています。

弊社では「環境との調和」の理念のもと、環境マネジメントシステムを通じ環境保全に真剣に取り組んでいます。

2015年度も省エネに役立つ製品の開発、温暖化ガスの排出削減、産業廃棄物の削減、騒音の低減、水質汚染物質の排出削減に精力的に取り組みました。特に、省エネに役立つ製品の開発と温暖化ガスの排出削減には、2014年度に続きハードとソフトの両面からより精力的に努力をいたしました。その結果として、省エネに役立つ製品をいくつか市場に出すことができ、少しではありますが社会に貢献することができました。温暖化ガスについては、「原単位1%以上のCO2排出量削減」を達成するとの思いでハード面だけでなくソフト面も含めて全員で取り組みました。その結果、電気使用量の平準化には少し貢献できましたが、市場変化により目標を達成することができませんでした。産業廃棄物の削減については、3Rを考慮した取り組みを続けており、目標を達成することができました。また、県の環境週間行事に賛同し、工場周辺の環境整備に取り組みました。

今年度も電力の平準化と節電、省エネ、省資源に新たな気持ちで取り組み、目標の達成に向かって着実に改善を進めていきます。また、省エネ、省資源に役立つ製品の開発に一層ちからをいれ、少しでも環境改善に貢献できればと思っております。「持続可能な生産・消費形態を確保する」に貢献できればと思っております。

今後も環境マネジメントシステムを通じ環境保全、環境改善に全従業員一丸となって積極的に取り組んでまいります。

日本黒鉛工業株式会社  
取締役瀬田工場長 杉本久典

# 目 次

1. 会社概要
2. 日本黒鉛工業株式会社瀬田工場環境方針
3. 瀬田工場環境マネジメントシステム
  - 3-1. ISO 14001:2004定期審査
4. 環境保全活動の経緯
  - 4)-1 省エネルギー(温暖化ガスの排出削減)
  - 4)-2 産業廃棄物の削減
    - 4)-2-1 洗浄廃液の削減(リデュース)
    - 4)-2-2 産業廃棄物(廃プラスチック)のリサイクル維持管理
  - 4)-3 社外からの苦情の低減
  - 4)-4 水質汚染物質の排出削減
5. 環境との調和
6. 緊急事態対応
7. 環境教育
8. 問い合わせ先・連絡先

# 1. 会社概要

社名：日本黒鉛工業株式会社

所在地：大津市唐橋町9番22号

設立：大正8年3月29日

資本金：9000万円

従業員：256名(2015年4月)

瀬田工場：大津市栗林町5番1号



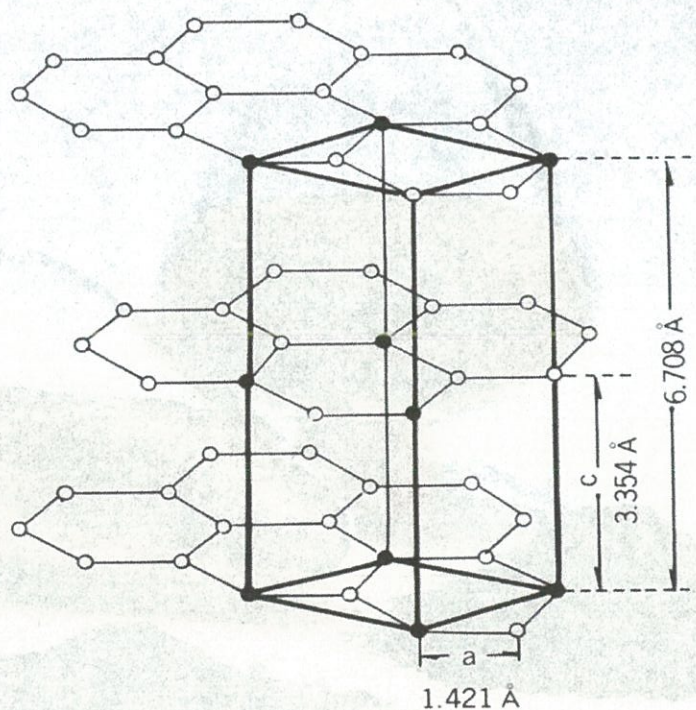
瀬田工場全景

# 石山工場:大津市唐橋町9番22号



石山工場全景

## 黒鉛とは……



黒鉛の結晶構造

『黒鉛』は鉛(Pb)ではありません。ニックネームのようなものです。正式名は石墨(Graphite)

といいます。ダイヤモンド・石炭・カーボンブラック等と同様炭素(C)の仲間です。結晶構造の違いにより、ダイヤモンドと兄弟でも性質も形状も異なっています。(黒鉛の結晶構造を参照して下さい)

『黒鉛』は、潤滑性・導電性・耐火性・耐酸、耐アルカリ性に優れており、これを4大特性と呼びます。日本黒鉛は、これらの特性を使用用途に合わせ、特性を100%発揮できるように仕上げ提供しております。潤滑の特性で使用される用途には、「鉛筆の芯、新幹線のパンタグラフ、自動車のブレーキパッドなどがあります。また、鍛造やダイキャスト向けの潤滑・離型剤としても使用されます。導電性の特性を利用した物には、各種電池の導電助剤、導電塗料は集電体として抵抗を下げる効果を有しております。デジタル製品の放熱やシールド、メンブレンスイッチ用途にも多岐に渡って利用されております。その他、黒鉛の使用用途としては様々な分野がありますが、一般的にあまり目に留まる部分や箇所には使用されてはおりません。すなわち、“縁の下の力持ち”としてあらゆる産業の基礎として、今後も社会貢献が出来るよう様々なニーズに対応できる商品を開発し、提供できる企業を目指してまいります。

## 日本黒鉛工業(株)瀬田工場 製造品目

### 第二製造技術部

乾電池用・鉛筆芯用・粉末冶金用・刷子用・ガスケット用黒鉛粉末  
EDLC電極 など



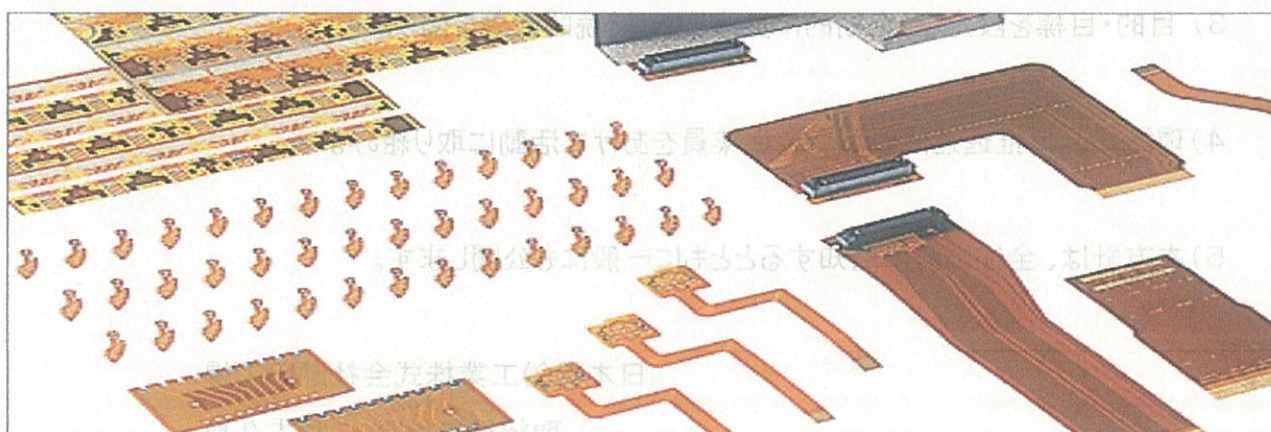
## 第一製造技術部

鍛造用・ダイカスト用潤滑剤・スクリーン印刷用、電池用、キャパシタ用各種導電性塗料 など



## 第四製造技術部

フレキシブルプリント配線板(FPC)・非接触 IC Card/IC Tag 用アンテナフィルム・各種コネクタ・各種メンブレンスイッチ



## 2. 日本黒鉛工業株式会社・瀬田工場 環境方針

### 環境理念

当社は、豊かな自然環境に恵まれた母なる湖、琵琶湖を背景に控えているなか、地球環境の保全が人類共通の重要課題の一つとして位置づけ「環境との調和」を基本理念として、黒鉛粉末・潤滑離型剤・電子部品等の製造をしています。

「豊かな自然を次世代へ」を掲げ、積極的な環境保全活動の取り組みを推進します。

### 環境方針

- 1) 事業活動に関わる環境影響を常に意識し、環境に関する法令・協定等を遵守すると共に管理水準の向上、環境汚染の予防を推進し環境管理システムの継続的な改善を図ります。
- 2) 環境影響低減のための重点取り組み事項を下記に示します。
  - (1) 天然資源の有効利用とエネルギー等の使用量削減を推進する。
  - (2) 環境負荷物質の発生を抑制し、環境汚染の未然防止を推進する。
  - (3) 産業廃棄物の減量化と分別回収による資源のリサイクルを推進する。
  - (4) 環境に配慮した製品の開発を推進する。
  - (5) 業務改善やコスト低減にもつながる環境に有益な取り組みを推進する。
- 3) 目的・目標を設定し、定期的に見直しし、継続的改善を図ります。
- 4) 環境保全の推進達成のため全従業員をあげて活動に取り組めます。
- 5) 本方針は、全従業員に周知するとともに一般にも公開します。

日本黒鉛工業株式会社瀬田工場

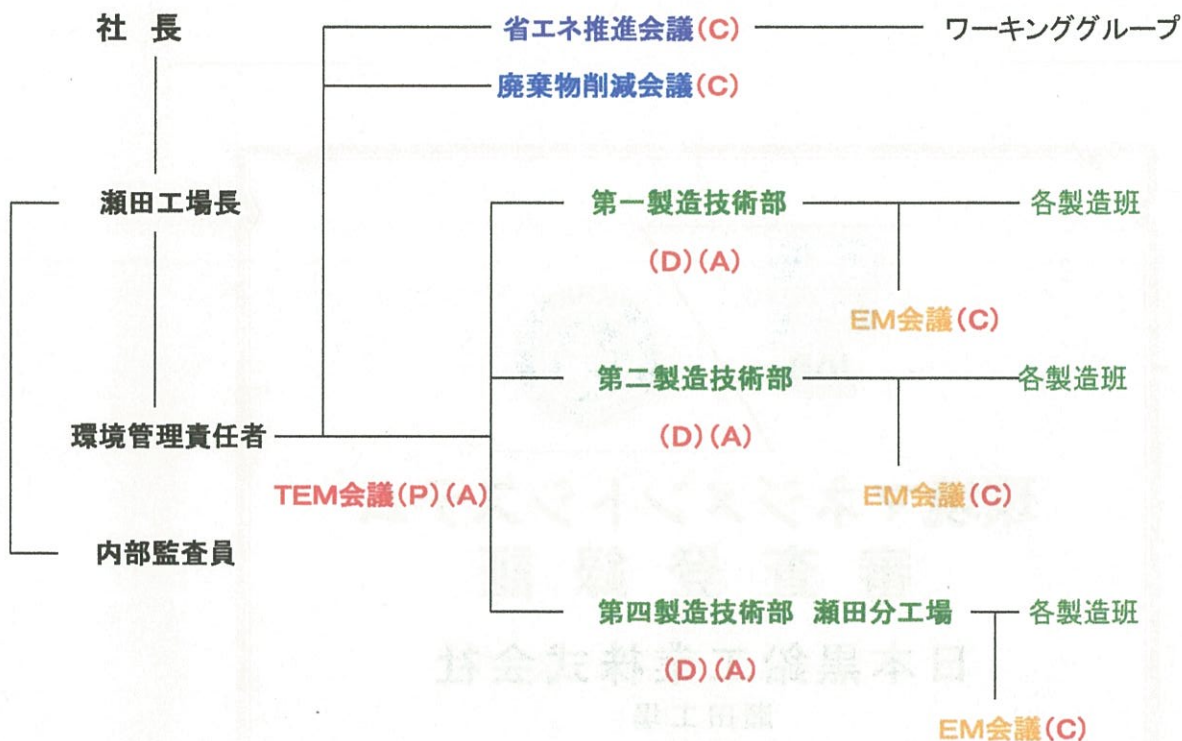
取締役工場長 杉本久典



### 3. 瀬田工場 環境マネジメントシステム

#### 日本黒鉛工業株式会社・瀬田工場 環境保全組織図

日本黒鉛工業株式会社（PDCAサイクル）



**TEM会議**: ISO事務局を議長とし、各部門の環境整備に関する審議・公害問題に対する対応策の決定・当工場の順法性の確認及び環境目標の進捗管理を行う。

**各製造部**: 環境改善目標の実行実務を担当する。責任者は各製造部長。

**各部門EM会議**: 該当部門内外の環境影響項目に関する監視・測定と改善および部門実行計画の進捗管理を行う。

**省エネ推進会議**: 省エネルギーに対する対策の検討および指示を出す。

**廃棄物削減会議**: 廃棄物に対する削減対策の検討および指示を出す。

## 3-1. ISO 14001:2004定期審査

2005年3月18日にISO14001:2004の審査登録証を取得し、更なる環境改善を目指し取り組みを開始しました。

2016年2月には、定期審査を受けた結果、大きな指摘事項もなく登録継続となりました。新たな環境目的・目標／実行計画も立ち上げ目標達成に向け日々努力しております。

	
<h3>環境マネジメントシステム 審査登録証</h3>	
<h4>日本黒鉛工業株式会社</h4>	
瀬田工場	
滋賀県大津市栗林町5番1号	
<p>上記で実施されている環境マネジメントシステムは、当協会ISO審査センターによる審査の結果、附属書05ER・513R3-01Aに記載の活動の範囲において、下記のとおり適用規格に適合し、同センターに登録されていることを証明します。</p>	
適用規格：	ISO 14001:2004/ JIS Q 14001:2004
登録番号：	05ER-513
初回登録日：	2005年3月18日
発行番号：	513R3-01
登録更新日：	2014年3月18日
発行日：	2014年3月14日
有効期限：	2017年3月17日
<h4>高圧ガス保安協会</h4>	
会長	ISO審査センター担当理事 兼 上級経営管理者
作田 穎治	加藤 透